

3号機気体廃棄物処理系の流量増加の調査状況について

3号機は、平成17年3月25日より調整運転を実施しておりますが、気体廃棄物処理系の流量が、通常運転時は約 $20\text{Nm}^3/\text{h}^{*1}$ のところ約 $36\text{Nm}^3/\text{h}$ まで漸増傾向が続いたことから、3月26日、発電機の出力上昇を約66万キロワットにて中断いたしました。これにより気体廃棄物処理系の流量の漸増傾向は見られなくなりました。

その後、上記出力にて調査を行いましたが、不具合箇所の特定には至らなかったことから、発電機出力を低下させ、詳細な調査を行うことといたしました。（平成17年3月27日お知らせ済み）

発電機出力を約16万キロワットまで降下させ、気体廃棄物処理系の流量増の原因調査として、復水器等への空気の流入の有無について調べたところ、異常は確認されませんでした。

その後、運転操作の状況について調査を行った結果、3月25日の発電開始以降、復水器内の真空度調整^{*2}を積極的に実施していなかったことが分かりました。そのため、復水器内に通常より多い非凝縮性のガス^{*3}が滞留し、復水器内から排出される非凝縮性のガスが流れ込む気体廃棄物処理系の流量が増加したものと推定しております。

なお、発電機出力を約37万キロワットまで上昇させ、当該系統の流量は通常運転時の変動範囲で安定していることを確認いたしました。

今後引き続き、発電機出力を定格出力まで上昇させ当該系統流量の確認を実施してまいります。

以上

*1 N （ノルマル） m^3/h

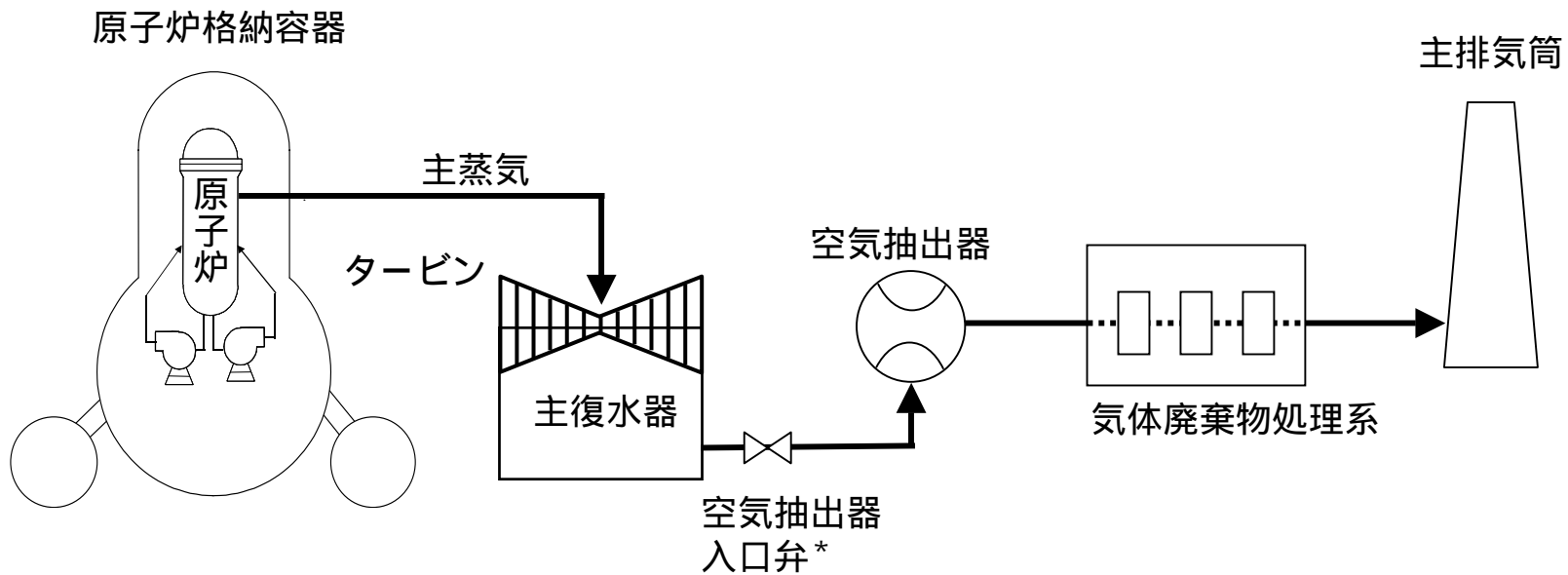
気体は温度と圧力により体積が変わることから、状態を比較しやすくするために0の大気圧条件で換算した流量。

*2 復水器の真空度調整

復水器の真空度は、復水器から排出する非凝縮性のガス量を空気抽出器入口弁の開度を調整することにより、適切に維持している。

*3 非凝縮性のガス

原子炉から発生した蒸気に含まれる酸素、水素等の気体や微量な放射性希ガス。復水器内の非凝縮性のガスは、復水器内の真空度維持のため、気体廃棄物処理系に抽出し処理している。



* : 空気抽出器入口弁の開度調整により
復水器内の真空度の調整を実施

3号機気体廃棄物処理系概要図